

緑化だより

No.41 平成21年8月号



カンレンボク(キシュ) 平成20年8月16日撮影

- 虹色きのこ
- 植物と歴史
- 花だより

- 研修会・イベント報告
- 研修会・イベント紹介
- お知らせ・ご案内

生き物いっぱい 自然いっぱい

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 166-2

TEL 082-899-2811 FAX 082-899-2843

URL <http://ryokka-c.jp> E-mail hiroshima@ryokka-c.jp



虹色きのこ

(4) 緑色

七色の虹のようにきのこも美しい色合いのものがあります。

クサイロハツ(草色初)

表面は草色ですが褪せてくると白っぽくなります。ひだは白色ではなく淡黄色を帯びています。カワリハツの緑色型に似ていますがクサイロハツには傘の周辺部に溝線があります。カバノキ属の樹下に発生します。食用。

アイタケ(藍茸)

表面は灰緑色、淡黄緑色で不規則な形の大小の破片にひび割れるのが特徴です。この特徴は一度見て覚えたら忘れることはないでしょう。ひだ・柄ともに白色で、柄は太く固く、しわ状の縦線があります。食用。

ミドリニガイグチ(緑苦猪口)

表面はオリーブ色です。傘の裏はひだではなく細かい穴がたくさんあり淡紅色を帯びています。柄の基部は黄色になるのも特徴です。“ニガ”という和名がついていますが味は苦くはありません。食毒不明。



クサイロハツ



アイタケ



ミドリニガイグチ

植物と歴史

『植物の進化(2) 後半』

さて、現在の種子植物は原始的な陸上植物である、シダ植物から進化したもので花や萼は、二叉状の茎を持っており、茎や葉(シュート部)が進化したものと思われていますが、これら二叉状の茎が集まって葉に進化したと考えられます。イギリスで出土したデボン紀初期のリニア類クックソニア(6月号の図)は、二叉状の茎の上にはまだ孢子嚢が認められます。このような茎や葉(シュート部)が進化したと考えられます。原始的な葉の例としては、図2の(b)Megaphylls はイチョウの葉で葉脈が二叉状に分枝し、現在の様な葉となっていくと考えられています。このように二叉状の茎が図2のような進化を繰り返し、現在の様な葉を獲得したものと考えられます。

もしかしたら、陸上の乾燥した環境にリニアの進出を可能にしたのは、リニアが土壌中から養分や水分を吸収するための根を分化させたこと。それに、すでに上陸していた菌類がその根と共生関係を結んで、生活をサポートしたからではないか?と考えられるそうです。さて、イチョウは、針葉樹の仲間とよく勘違いされますが、厳密にいうと針葉樹の仲間ではないことが知られています。(次回は、進化した葉)

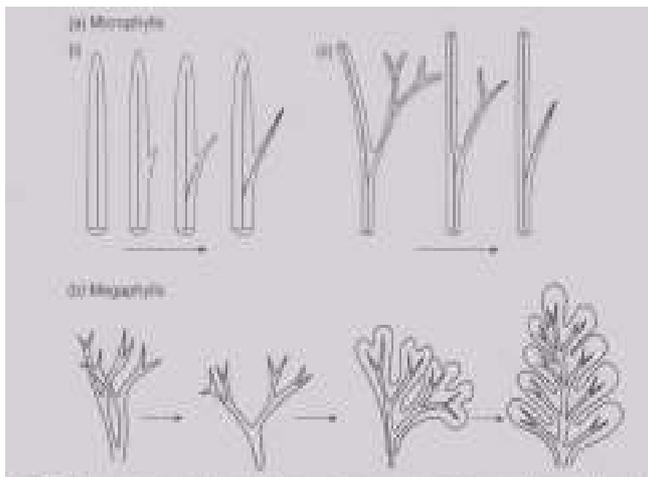


図2 George Ledyard Stebbins, Jr.
「Evolution of Plants (1950)より

花だより

ツルマンリョウ ヤブコウジ科ツルマンリョウ属

沖縄・鹿児島・奈良・山口に稀に分布し、台湾や中国にも知られている植物で、広島県では三原市(旧本郷町)、広島市で確認されています。(広島県の植物誌:中国新聞社)センター内でも林内での生育が確認されたのですが、鹿等の被害もありその数を減らしています。レッドデータブックひろしまでは、絶滅危惧種に指定されています。

ツルマンリョウは希少種として、奈良県東吉野村の丹生川上中社と山口県徳治町出雲神社の自生地では、昭和

32年に国の天然記念物に指定され保護されています。常緑つる性低木で明るい常緑広葉樹林の林床に生育し、花は雌雄異株で7~8月に開花し、雌花は萎れた後、そのまま茎に付いた状態で冬を越し、翌年の5月頃から大きくなり、秋に赤く熟します。茎は分枝せずに1本立ちのような形になり、ある程度大きくなるとやや傾きますが枝を上へ伸ばし、高さは1m程度になります。和名はマンリョウに似ていて、ツル状になることから付けられました。ツルアカミノキとも言われています。

植物地理学上の貴重な存在であり、天然記念物に指定するなどして保護していく必要がある植物の一つです。



ツルマンリョウの花



ツルマンリョウの赤い実



上:H20.6.27 下:H21.6.5 同じ場所
葉を食べられたような形跡がみられた

研修会・イベント報告

7月19日(月) 『夏のきのこ教室』

雨の中での研修になるのではと心配される中、第3駐車場に集合し、園内で各自がきのこを採取した後、学習室に持ち寄りました。持ち寄ったきのこは、名前と食毒の鑑定を行いました。

当日採取されたきのこは102種で、これより他にまだ名前が付けられていないものも沢山ありました。また、名前は付いていても食べられるかどうか判らないものもあり、きのこの分野はまだ解

明されていない部分が多くあります。食べられるきのこではタマゴタケ・カワリハツ・カレバキツネタケ・カバイロツルタケ・キイロイグチ・コウジタケ・クリイロイグチ・ヤマドリタケモドキ・アカヤマドリ等が採取され、毒のあるものは、コテングタケモドキ・フクロツルタケ・コテングダケモドキ・ニセアシベニイグチ・ヒカゲシビレタケ・サマツモドキ・ヒメカタショウロ・キヒダタケ等がありました。緑化センターで最初に確認され登録された『アキノアシナガイグチ』も採集されました。



夏のきのこ教室

研修会・イベント紹介

○8月8日(土)『美しい変形菌の世界』10:00～12:00 学習室集合 ルーペ・ナイフがあれば持参
講師:日本変形菌研究会会員 原紺 勇一 先生

変形菌とは粘菌とも言われ、栄養体が移動しつつ微生物などを摂食するという“動物的”性質を持ちながら、小型の子実体を形成し、胞子により繁殖するという植物的(あるいは菌類的)性質を合わせ持つ、特異な生物のことです。きのこは違う子実体を観察してみませんか。

○8月21日(金)『8月の自然探勝』10:00～12:00 第3駐車場集合

講師:広大名誉教授 石橋 昇 先生

植物を観察しながら、木陰の散策路を歩きます。暑い時期ですが、溪流の傍を散策しませんか。お飲物をお持ち下さい。

○8月23日(日)『親子で木の枝工作』10:00～12:00 学習室集合 要予約

講師:手作り工房いっちゃん 隅田 五雄 先生

木の枝を使って人形を作ります。自然素材を使って、オリジナル人形を作ってみませんか。

♪☆お知らせ・ご案内☆♪

◎ 入園者が300万人を超えました

7月31日に、昭和55年(1980年)9月に開園して以来、広島県緑化センターの入園者が300万人を超えました。300万人目の方には、花束とレストハウス無料食事券を贈呈し、記念植樹を行いました。引き続き、多くの方に利用して頂ける施設を目指してまいります。

◎ 展示会のお知らせ 展示場所:レストハウス

○世界のチョウ展 8月1日(土)～8月23日(日)

世界中で採集された、チョウの標本を展示します。色鮮やかなチョウをお楽しみ下さい。

○愛鳥週間原画コンクール優秀作品展

8月25日(火)～9月9日(水)

○紙粘土細工展 開催中～8月19日(水)

紙粘土で作られた花や人形を展示しています。

○古布を使った作品展 8月22日(土)～9月27日(日)



紙粘土細工展

◎ 8月の土・日は閉園時間を1時間延長し、午後5時まで開園します

◎ アンケートにお答えいただいた方には、ゆで卵1個プレゼント

8月の土日で、レストハウス内に設置しているアンケート用紙にお答えいただいた方全員にもれなくゆで卵1個を差し上げています。皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

◎9月1日で29周年になります

9月1日で緑化センターは開園29年を迎えます。樹木は大きく茂り、近年は様々な生き物(野鳥・チョウ・トンボ・甲虫・きのこ等)がたくさん生息する自然あふれる公園になっています。